

議長	局長	次長	係長	事務局員

令和元年11月6日

三沢市議会議長 船見亮悦 殿

総務文教常任委員会

委員長 下山光義

副委員長 瀬崎雅弘

委員 小比類巻孝幸

委員 遠藤泰子

委員 太田博之

委員 小比類巻雅彦

随行員 中村容三

復命書

令和元年10月31日から令和元年11月2日まで、石川県白山市及び小松市において、当委員会の行政視察を実施したので、その概要について下記のとおり復命いたします。

記

視察概要－1【石川県白山市】

- 1 日 時：令和元年11月1日（金）午前10時00分～11時30分
- 2 場 所：白山市役所 議会第1会議室
- 3 対応者：白山市議会事務局 課長補佐 酒井誠一
担当者：白山市交通対策課 課長 宮本郁夫
〃 係長 古木誠
- 4 観察項目：「コミュニティバスめぐーると一部デマンド方式」について
- 5 観察概要：下記のとおり

（1） 観察にあたっての挨拶

白山市議会議長 石地宜一氏
三沢市議会総務文教常任委員長 下山光義

（2） 白山市の概要

白山市は、日本海沿いの平野部に位置する松任市、美川町、鶴来町と、日本3名山として知られる白山ろく地域の河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村の1市2町5村が平成17年に合併して誕生した市で、白山国立公園や一級河川の手取川、日本海までの標高差2,700mにおよぶ環境変化に富んだ市全域が『白山手取川ジオパーク』に認定されている。

また、平野部は、県都金沢市と隣接していることから物流の拠点として栄えており、平成17年の合併によって、白山市は金沢市に次ぐ石川県第2位の人口を有している。

（3） コミュニティバスめぐーると一部デマンド方式について

ア コミュニティバスめぐーるの概要

白山市は、金沢方面への路線を中心に北陸鉄道や北鉄金沢バスなど民間事業者の鉄道や路前バスが運行しているため、鉄道や路線バスのない交通空白地帯を主として白山市コミュニティバスを運行することにより、移動制約者の通院、買い物、通学などを支援しているとのことであった。なお、当該コミュニティバスの運行経費は、平成30年度実績で約1億1,610万円。これに対する収入は、運賃収入が約600万円、広告収入約215万円で、約7%程度に留まっている

とのことであった。

このような中、もともと黒字経営は無理な状況であったことから、市民へのサービスの向上と利用者数の増加を図るため、平成30年4月から75歳以上の高齢者についての運賃無料化に取り組んだところ、利用者数ベースで約11%の増加が図られたとのことであった。

イ デマンド運行の経過と概要

白山市では、平成17年の合併協議の際に、公共交通の見直しについて申し合わせていたことから、利用者が少ない山間部の地域については、平成19年4月からデマンド方式の『めぐーる』運行を開始したとのことであった。当該『めぐーる』の運行については、バス会社への委託方式により5か年契約（バス車両の手配と運転手の雇用のため）で実施しており、その後、5年ごとの見直しを経て、現在では、空バスの運行を防止するため、前日の午後5時までに予約があった場合にのみ、山間部ルートを運行しているとのことであった。

（4）所管

当市では、コミュニティバス運行事業費補助金をはじめとする地域公共交通対策費約7,230万円（H30決算）を支出し、地域公共交通みーばすの運行等により地域住民における移動制約者の支援を行っているが、人口の少ない北部地域については、バス路線・利用者ともに少ない状況にあることから、デマンド運行をはじめとする地域交通対策を求める声もあがっている。

今回、視察した白山市では、バス利用者が少ない地域においては、空バス運行の対策や費用対効果の問題など、まだまだ検討していかなければならない課題も多いということではあったが、平成17年の合併協議において、山間部の公共交通の見直しをすることとしていたことから、現在、地域住民からの予約に応じた一部デマンド方式について実施しているとのことであったが、当市でも当該事例を参考としながら、少子高齢化に対応した地域公共交通の在り方について、検討していくべきであると感じた。

視察概要－2【石川県小松市】

- 1 日 時：令和元年11月1日（金）午後2時00分～3時30分
- 2 場 所：小松市役所 議会第3委員会室
- 3 対応者：小松市議会事務局 課長 本谷 徹
担当者：小松市まちデザイン課 参事 北 佳孝
- 4 観察項目：「小松駅南ブロック複合施設」について
- 5 観察概要：下記のとおり

（1）観察にあたっての挨拶

小松市議会議長 出戸清克氏
三沢市議会総務文教常任委員長 下山光義

（2）小松市の概要

小松市は、石川県の西南部、加賀平野のほぼ中央に位置する市で、建設機械メーカー『コマツ』をはじめ、その関連企業や工場も多いため、北陸工業地帯の一翼を担う重工業が発達しており、製造品出荷額は県内第1位となっている。また、歌舞伎『勧進帳』の舞台である安宅の関や、那谷寺、栗津温泉など自然や名所に恵まれているとともに、九谷焼をはじめとする伝統工芸も盛んである。

現在は、白山市誕生によって県下第3位の人口となったが、県内一の工業都市であることや、県の出先機関が多く所在していること、小松空港や新幹線開業予定の小松駅があることなどから、石川県第2の都市という位置づけが強くなっている。

（3）小松駅南ブロック複合施設について

ア 事業の経緯

小松市では、平成22年に小松駅前のデパート『大和（DAIWA）小松店』が閉店することを受け、駅前（中心市街地）活性化のため、当該跡地を買収したことです。その後、跡地活用概要案（子育て施設・商業施設・ホテル）を提示し、関心表明者を募集したところ、平成26年に現行複合施設の事業主体であるSPC（青山ライフプロモーション）が優先交渉権者に決定し、平成27年に実施設計、平成28年から建築工事に着手し、平成29年に現行複合施設の小松アズスクエアがオープンしたことです。

イ 施設の概要

今回、視察した複合施設『小松アズスクエア』は、鉄骨造地上8階建、敷地面積3,940m²、延べ床面積9,420m²、総事業費約45億円で、うち10億円は国・市からの都市機能立地支援事業補助金を充てているとのことでした。

小松アズスクエアの最終的な（現在の）利用形態は、1階部分に民間の有料子育て施設「カブッキーランド」が約800m²、ブックカフェのPRONT+BOKSが約250m²、英会話のイーオンが約150m²、2階～3階の3,600m²が公立（小松市立）小松大学のキャンパス、4階～8階がホテルグランビナリオとして運営されているとのことです。

ウ 事業の効果

事業主体であるSPCは、建設費をホテル等からのテナント料で賄うことから当該事業への出資にあたってリスクが少なく、資金調達にも苦慮しなかったとのことです。また、当該複合施設に入居したテナント（ホテル等）については、補助金の助成がそのままテナント料金の軽減につながっているため通常よりも低価格で駅前（中心市街地）への出店が可能になっているとのことでした。

また、小松市としては市有地の貸付料については、そのままテナント料（市において公立大学分を負担）に上乗せになるため無償にしたとのことであったが、その分、公立大学のテナント料金が軽減されるとともに、新たな公立大学の整備費（公共工事による建設費や土地取得代）が不要になるとともに、当初、土地取得をした目的でもある中心市街地の活性化も図られたとのことであった。

また、一体的な運営による利点もあるとのことで、ホテルの朝食については1階のPRONTを利用してもらうとともに、公立大学ではレストラン等の福利厚生施設の整備はせずに、PRONTや周辺商店街での飲食や書籍・文房具の購入をし、子育て支援施設の利用者としても、駅が近く、ブックカフェが併設されているため、立地・利便性の向上が図られ、更には、周辺の中心商店街への人の流れも増加するなど、駅前（中心市街地）の活性化にもつながっているとの説明がありました。

(4) 所管

現在、国や地方自治体においてPFI（民間活用）やPPP（公民連携）の推進が求められているが、小松市の駅南ブロック複合施設の事例については、当該PFI・PPPが非常にうまく機能している事例であると感じました。

前述した事業の効果でも記載したとおり、各関係機関がWin-Winとなつてゐるとの説明であったため、次のとおり主な業種ごとに、箇条書きにて、利点（効果）をまとめておきます。

①事業主体・・・国庫補助事業の採択要件に合致させるとともに市側の計画に沿った整備をすることによって、約10億円の補助金助成と、駅前の一等地を50年間の定期借地として借受けるといった利点があり、また1階～3階部分については、市側の介入によって25年間の定期賃貸借契約が約束されていたことから出資（投資）リスクが少なく、銀行からの融資についても簡単に受けられたとのことであった。

②運営主体・・・①により整備費が軽減されたことによって、テナント料金が安価となっているだけでなく、市・周辺商店街・ホテル・大学・子育て支援施設・店舗等が相互利用をすることによって、通常必要とされる施設（飲食・販売部門）への出資が不要となり、逆に、カフェや周辺飲食店等では、安定した利用客の確保が図られるなど、お互いに助け合う形で運営されていた。

③小松市・・・駅前デパートの撤退によって懸案事項となっていた駅前（中心市街地）の活性化が図られたことはもちろん、民間主導にすることによって、当初見込まれていた集客用の公共施設整備事業費が削減されるとともに、市有地の有効活用、公立大学整備費の軽減も図られたとのことであった。

④周辺商店街・・・ホテルの利用客、大学生、子育て支援施設の利用者が飲食や買い物で周辺商店街に訪問するようになり、一時閑散としていた駅前が活性化され、通行者・歩行者の数も増加した。

⑥その他・・・当該事業の実施・運営により、地元業者による工事の受注や、備品消耗品等の受注機会の増加、地元金融機関における取引拡大も図られ、地域全体の経済効果も大きかった。

三沢市議会では、各常任委員会において、市当局の事務事業の調査等を実施しており、市当局においても、これまで担当部局ごとに業務の遂行がなされているように思われる。このため、三沢市の中心市街地周辺における公共施設についても、市役所、公会堂、総合体育館、図書館、総合社会福祉センター、保健相談センター、キッズセンターそらいえ、中央社会福祉センター、勤労青少年ホーム、そだなす館、市営駐車場、公園、市営住宅など、それぞれが単体で完結し、点在している状況にある。

今回の事例を参考にした街づくりを実施する場合には、これら公共施設等を総合的に配置するとともに、連携させることにより、例えばキッズセンターで子どもを遊ばせながら、親が同一建物（同一敷地）の図書館で本を読むなど、住民の利便性向上が図られるとともに、更にはPFI・PPP方式の採用によって、カフェやホテル、マンション、駐車場などを併設させることができれば、例えば、市役所で用事を足した後、図書館で本を借りてカフェでお茶を飲み、帰りに買い物をして、すぐ近くのマンションに帰る。そして、たまにはスカイプラザや一方通行などの中心市街地商店街にも足を延ばすなど、住民の利便性の向上や中心市街地の活性化が図られ、また、各部門が連携することによって役割分担が可能となり、例えば市役所内のレストランや売店を設置せずに、同一敷地内のカフェやレストラン、商業施設での買い物ができるなど、様々な可能性が出てくることから、今回の視察は、今後の三沢市の街づくりにあたって、非常に参考となる事例であった。

[総務文教常任委員会行政視察（石川県白山市）写真 P 1】



白山市
視察時全景



白山市
視察時全景
(反対側)



白山市
市役所バス停
(集合写真)

[総務文教常任委員会行政視察（石川県小松市）写真 P 2]



小松市
視察時全景
(議員側)



小松市
視察時全景
(説明者側)
